

塾生募集

オープンイノベーション ナノセルロース塾

第6期(2023年度)

ナノセルロース塾はこれまで高い評価を得ております。
第6期は対面・オンライン併用で開催！

期 間 令和5年 **6** 月～令和5年 **12** 月 (全 **6** 回 **土** 曜日開講)

受講方法 **会場** [京都大学宇治キャンパス、
京都市産業技術研究所 (ほか)] **又は オンライン** (Zoom)

*会場又はオンラインでの受講のいずれかを毎回選択できます。

定 員 **100** 名

資料代 **20,000** 円 (6回分一括) *申込受付後に振込先を連絡いたします。

ナノセルロースジャパン・一般会員は無料

申込期限 令和5年 **6** 月 **9** 日 (金) まで

申込方法 E-mailに下記の事項を記載のうえ、お申し込みください。

申 込 先 : open-innovation@nanocellulosejapan.org

メール件名 : ナノセルロース塾申込

記載内容 : ①受講者の氏名(ふりがな)及び所属・役職

②企業の名称及び所在地(ナノセルロースジャパン・一般会員はその旨)

③受講者の連絡先(E-mail・電話番号)

*各回、受講者を変更することは可能です。

主催 : ナノセルロースジャパン

共催 : 京都大学バイオナノマテリアル共同研究拠点

後援 : プラスチック成形加工学会

“ナノセルロース塾” 開講宣言

(2018年6月)

塾長 京都大学客員教授 渡邊 政嘉
副塾長 京都大学特定准教授 吉田 朋央
顧問 京都大学教授 矢野 浩之
(ナノセルロースジャパン技術・普及分科会長)

セルロースナノファイバー(CNF)に関わる研究開発活動は、国内外で盛んに進められています。激化する国際競争の中で我が国のCNF関連企業がフロントランナーとして主導的なポジションを獲得するためには、企業内部での自前開発だけに頼っているだけでは限界があり、戦略的に社内の強みを生かしながら、外部の資源を積極的に取り込む活動が必要不可欠となっています。

新たな市場を開拓するためには従来技術の延長線上の発想を超えて、異なる技術分野との融合によって生み出される新たな価値創造活動が原動力となります。

しかしながら、異なる技術や事業分野とのネットワーク形成は必ずしも簡単ではなく、困難を伴います。そこで新たにCNF関連企業がオープンイノベーション活動を円滑に進める場づくりとなる活動としてオープンイノベーション“ナノセルロース塾”を開講します。

具体的にはCNF以外の異分野技術に関する専門家を招聘し、異なる技術領域との融合や複合によりCNFの新たな活用に関するヒントを得るとともに、将来の共同研究開発等のシーズ開拓やマーケット開拓のヒントを得る場を設けます。

*“ナノセルロース塾”は、CNF技術に関心を持ち新たな用途開発や市場開拓を検討している技術者、研究者、技術営業担当者、マーケティングリサーチャー及びコンサルタントなどの方を対象とします。

～ナノセルロースジャパンが主催～

ナノセルロースジャパンは、ナノセルロースの実用化及び産業規模の拡大を図るため、2020年4月に設立しました。この間、産官学連携による技術開発、会員企業間の協業推進、ナノセルロースの国際標準化活動を行い、日本の産業競争力を高めています。ナノセルロースの分野では多くの新製品が生まれましたが、一方で1社だけでは実用化が困難な場合が多いようです。こうした課題解決に向け、ナノセルロース塾は、これまでのノウハウを引き継ぎ、会員以外の事業者も含めた幅広いオープンイノベーションの場づくりとして開催するものです。ナノセルロースに関心を寄せる多くの方々への参加をお待ちしております。

講義内容

No	開講日 会場(予定)	講師(プロフィールは後述参照/敬称略)	テーマ
1	6月24日(土) 京都市産業技術研究所	渡邊 政嘉(塾長) 京都大学客員教授 桑島修一郎(副塾長) 京都大学特定教授	オープンイノベーションの基礎
2	7月22日(土) 京都大学宇治キャンパス	矢野 浩之 京都大学教授 西村 拓也 トヨタ車体株式会社	CNF/材料の基礎
3	9月16日(土) 京都市産業技術研究所 *1	北岡 卓也 九州大学教授 荒木 潤 信州大学教授	CNF新分野の適用可能性
4	10月14日(土) 山形大学(米沢市) *2	八尾 滋 福岡大学教授 伊藤 浩志 山形大学教授	炭素循環社会貢献CNF関連技術
5	11月18日(土) 京都大学宇治キャンパス	齋藤 継之 東京大学教授 遠藤 貴士 産業技術総合研究所	CNFとものづくり
6	12月16日(土) 京都大学宇治キャンパス	橋本 賀之 第一工業製薬株式会社 鶴田祥一郎 (一社) サステナブル経営推進機構	CNFの社会実装とLCA

- 開講時間 13:30～17:20 毎回、ネットワーキングと講義を開催します。
- 17:20以降、会場にて交流会(実費負担:500円程度)を予定しております。(第4回は前日別途予定)
- *1:第3回は、ナノセルロース塾第1～5期受講者とのネットワークの輪を広げるため、京都市産業技術研究所にて同窓会を同時開催します。
- *2:第4回は、山形大学、宮城県と連携で開催し、会場は山形大学(米沢市)を予定しております。前日13日午後は施設見学会・交流会、当日14日午前にはポスターセッションも企画しております。



渡邊 政嘉

京都大学客員教授（一般財団法人高度技術社会推進協会・常務理事）。経産省産総研室長、紙業服飾品課長、産業技術政策課長、NEDO 理事、中小企業庁経営支援部長、経産省東北経済産業局長、内閣審議官を歴任し、令和 4 年 7 月退官。研究所経営（オープンイノベーションハブ戦略）に関する研究、セルロースナノファイバーの産業利用に関する研究等、多数実施。紙業服飾品課長時代に世界に先駆けナノセルロース社会実装に向けたナノセルロースフォーラムの設立をリード。受賞歴：型技術協会創立 30 周年「功労者賞」、日本機械学会フェロー、同会創立 120 周年記念功労者表彰など。博士（工学）



桑島 修一郎

京大大学生存圏研究所生存圏未来開拓研究センター長。2000 年九州大学大学院理学研究科博士後期課程修了。京都大学大学院工学研究科科学技術振興助教、講師を経て、2009 年京都大学産官学連携センター准教授。2010 年より経済産業省産業技術環境局技術戦略政策官としてイノベーション政策に従事。2013 年から京都大学産官学連携本部特任教授として産官学連携支援を担当、2023 年 4 月より現職。研究・イノベーション学会理事。博士（理学）



矢野 浩之

京大大学生存圏研究所教授。京都府立大学林学科助手、同講師、京都大学木質科学研究所助教授を経て 2004 年より現職。セルロースナノファイバー材料の開発によりセルロース学会林治助賞、日本木材学会賞を、パルプ直接混練法“京都プロセス”の開発により本田賞、TAPPI ナノテクノロジー部門賞、科学技術分野の文部科学大臣表彰をそれぞれ受賞。渡邊課長（当時）、磯貝教授と連携してナノセルロースフォーラムの設立、運営に貢献。ナノセルロースジャパン技術・普及分科会長を併任。農学博士



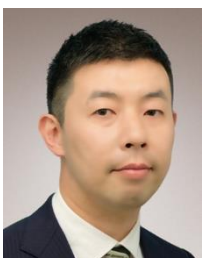
西村 拓也

植物の高度加工利用、新規利用、高機能材料への変換の研究開発に一貫して従事。自動車会社にて木材、植物繊維、セルロース、リグニンといったそれら成分を用いた植物材料開発を行う。またポリ乳酸に代表されるバイオプラスチックを用いた材料開発、自動車部品開発に携わる。こうした植物材料の自動車への適用を推進。量産性、品質、コストの課題を克服し、さまざまな自動車に部品として使用されている。植物材料と自動車を結びつける研究開発分野の専門家である。農学博士



北岡 卓也

九州大学大学院農学研究院教授・副研究院長。大蔵省印刷局（現 独立行政法人国立印刷局）、九州大学農学部助手、同助教授・准教授を経て 2013 年より現職。天然多糖の界面構造・ナノ形態が鍵を握る有機分子触媒反応やバイオマテリアル開発など、新材料・新機能開拓研究を精力的に実施。文部科学大臣表彰若手科学者賞、日本学術振興会賞、セルロース学会賞、繊維学会賞など多数の受賞。セルロース学会理事、機能紙研究会理事など。博士（農学）



荒木 潤

信州大学繊維学部教授。2001 年東京大学農学生命科学研究科博士課程修了。JST-CREST 研究員、アドバンスト・ソフトマテリアルズ技術顧問などを経て、2007 年信州大学国際ファイバー工学研究拠点デニュアトラック助教、2012 年信州大学繊維学部准教授、2021 年より現職。2022 年より NEDO「炭素循環社会に貢献するセルロースナノファイバー関連技術開発」サブプロジェクトリーダー。2015 年セルロース学会奨励賞、2021 年高分子学会バブリシティ賞受賞。博士（農学）。



八尾 滋

福岡大学工学部化学システム工学科教授。1981 年京都大学工学部高分子化学科卒、1986 年京都大学工学研究科高分子化学博士後期単位修得満期退学、1988 年工学博士（京都大学）
1986 年宇部興産(株)入社、1999 年同社高分子基礎研究部部長、2007 年(株)三菱総合研究所入社。
2011 年現職。2016 年機能・構造マテリアル研究所所長、2018 年 産官学連携センター長。
2000 年日本レオロジー学会有効賞、2018 年プラスチック成形加工学会功労賞、2018 年プラスチックリサイクル化学研究会研究進歩賞を受賞。専門分野：高分子物性、機能性材料。



伊藤 浩志

山形大学大学院有機材料システム研究科教授。沖電気工業(株)研究員、鶴岡高専助手、東京工業大助手、山形大学准教授を経て2010年より現職。現在、山形大学グリーンマテリアル成形加工研究センター長、同大学理事特別補佐、同大学有機材料システム研究科研究科長、同大学工学部副学部長等。様々な高分子・複合材料の成形加工技術の教育・研究に従事し、プラスチック成形加工学会功労賞、同学会論文賞、英国 Alan Glanvill 賞など多数受賞。また現在、米国 Society of Plastics Engineers 日本支部長、国際高分子加工学会(Polymer Processing Society)国際評議員、ナノ構造ポリマー研究協会理事等。博士(工学)



齋藤 継之

東京大学大学院農学生命科学研究科教授。2003年東京大学農学部卒、2008年同大学大学院農学生命科学研究科にて博士号取得。2005年～2006年、フランス植物高分子研究所に留学。同大学工学系研究科の博士研究員を経て、2009年に農学生命科学研究科の助教に着任。2012年～2013年、スウェーデン王立工科大学にて客員研究員。2013年に准教授昇任、2022年より現職。主な受賞歴に、2008年東京大学総長賞、2015年マルクス・ヴァレンベリ賞、2019年日本学術振興会賞など。



遠藤 貴士

(国研)産業技術総合研究所・機能化学研究部門・セルロース材料グループ・上級主任研究員、1992年広島大学大学院理学研究科化学専攻・博士課程修了[博士(理学)]、同年、通商産業省・四国工業技術試験所入所、組織改革により、2001年に産総研・主任研究員、グループ長等を経て現職。入所以来、対象はセルロース、手段は機械的処理を基本として研究開発を継続中。主な受賞歴：第59回注目発明選定、セルロース学会奨励賞、セルロース学会賞、ナノテク展2016プロジェクト賞、紙パルプ技術協会賞、産総研理事長賞など



橋本 賀之

1993年第一工業製薬(株)入社。反応性乳化剤および産業分野向け各種界面活性剤の合成、物性・応用評価を担当。2010年同社機能化学品事業部 機能化学品研究所長、2014年執行役員 研究開発本部副本部長(セルロースナノファイバー研究を所管)。その後、機能化学品事業部長、四日市合成株式会社 代表取締役社長を経て2021年執行役員 研究本部長。2022年4月より ナノセルロースジャパン 事務局長



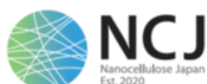
鶴田 祥一郎

2007年4月社団法人産業環境管理協会に入社。ISO14001の審査員評価登録制度、ISOに準拠したタイプⅢ環境ラベルのエコリーフ(EPD)やカーボンフットプリント(CFP)制度のプログラム構築・運用、LCAのソフトウェア開発、コンサルティング業務に従事。2015～2016年度に環境省地球温暖化対策課に出向し、バイオマスや水素を中心とした技術開発実証業務等に従事。2019年に一般社団法人サステナブル経営推進機構の設立に伴い、転籍。現職ではLCAを中心としたコンサルティング業務に従事

備考

- ナノセルロース塾は、受講者の交流が促進できるよう、ネットワーキングにおいて、自社アピールなど実施していただきます。こうした活動を通じてオンラインでの運営でも受講生の約半数の方がネットワークを構築しております。
- 毎回事前に講義資料を郵送します。また、専用サイトにも講義資料を掲載します。
- 会場参加(対面)の場合、交通費、交流会費などは受講者にてご負担ください。
- オンライン配信にて参加いただく環境は、受講者側でご準備ください。また、インターネット回線の通信状況等により、良好に聴講できない可能性があります。
- 新型コロナウイルスの感染拡大などの状況に応じて、やむを得ず内容を変更させていただく場合がございます。予めご了承ください。

お問い合わせ先



ナノセルロースジャパン ナノセルロース塾担当
E-mail open-innovation@nanocellulosejapan.org